

## 令和3年12月定例会 地方創生・行財政改革特別委員会の概要

令和3年12月20日（月）

令和3年12月定例会 地方創生・行財政改革特別委員会における発言

### 平松委員

1 ワンストップは、県民にデジタルの良さを実感してもらうためにも、非常に重要な取組だと思っており、先ほど技術的な部分と予算的な部分ということで答弁あったが、法律上の取扱いなど、それ以外に障害となるものはないのか。

2 デジタルを新しく進めていき、トランスフォーメーションまで持っていくとなれば、県民にイメージを持ってもらう取組も重要になってくると思う。実証事業やモデルエリアなど、ロードマップの中に示されているものでも必要になってくると考えるが、どうか。

3 行政事務においても、ペーパーレスなど様々な取組をこれから進めていき、その中で負担が発生しても、効率化、省力化というその先の取組の果実が量的に見えていけば、頑張ろうという考えにもなると思うが、そうした部分をしっかり示していくのか。

4 先ほどのオープンデータの公開、ロードマップの中に観光関係も入っており、こうした部分で、市町村と密接に関わっていき、特定の優れた市が進んでいるのではなく、63市町村全体としてデジタルが前進し、結果としてトランスフォーメーションにつながっていくことが非常に重要であると思う。一方、自治体の規模によって、いろいろな業務を兼務で進める自治体もあり、人材の確保などがDXを進める上で大変な負担になると思うが、そうした自治体への財政的支援、専門人材派遣などのサポートについて、どう考えているか。

### デジタル政策幹

1 先ほどは技術的にどう進めていくかという質問であったが、法律に基づく手続である以上、その法律の中に手順等が規定されているものが多くある。まず県で解消できるものについては、調査した上で直していき、法律に関するものであれば国に対応してもらう必要があるため、どんどん要望していき、システムを含む実務と制度、両方の問題が解決してこそ、ワンストップが実現できるものと考えている。

2 この取組でこうした成果が得られた、こう変わったという具体例があることが一番よいと考える。今回、ビジョンという言葉のとおり、資料にも絵や写真を入れて、イメージがつかみやすくなるよう努めているが、実事業に勝るものはないと考える。残念ながら、令和4年度の予算は、これから審査されるため、現在言及できないが、考え方として、実証やモデルエリア等の実事業を紹介して展開する手法は、非常に有効であると考えている。

3 分かりやすい例として庁内の取組を紹介するが、ペーパーレスをDXの最初の段階として取り組んでおり、やみくもに紙を廃止するだけではなく、これだけ削減された、こうしたメリットがあったと記録し、数字で分かるようにした上で、全庁に発信していき、情報

共有を図っている。こうした手法を取らなければ、委員指摘のとおりモチベーションが維持できないため、今後も進めていく。

#### **平松委員**

取組自体は評価するが、年2回の勉強会、専門部会の中でどこまで各自治体が課題などを共有、解決できているかは限定的と考える。大規模自治体と違い、小規模自治体では、財政支援のメニューがあってもどう活用するか検討することも大変であり、県民全体のことを考えると、小規模自治体であっても進めていくため、県の果たす役割は大きく、更にきめ細かい支援を行っていくべきと考えるが、どうか。

#### **情報システム戦略課長**

町村については、県と町村会のシステム部会と密接に連携しており、国の進めるガバメントクラウドの先行事例にも美里町、川島町が採択されるなど、町村でも先進自治体があるため、そうした自治体と共に、県が情報提供をしながら支援をしていく。市だけでなく 町村支援には力を入れており、町村会のシステム責任者会議等に県も出席し支援している。